

人気の山域の静かな本流

南アルプス 大武川本流

当初は川内山塊のアカシガラ沢のリベンジ予定だったが天気のみならず諸事情のため、大武川本流に転進となった。甲斐駒南面の一大流域、そして摩利支天の岩壁や赤石沢奥壁を有するロケーション、期待は高まるばかりだ。

7月16日（土）：霧雨時々曇り

道の駅にて仮眠したが深夜から降り出した雨のため、テント内が浸水してしまった。朝起きる頃には上がっていたので準備を整え、大武川左岸林道を目指して出発する。あまり土地勘がないので佐貫が一生懸命に地図読みをしてくれたところ、車酔いをしてしまったらしい。また予定通り7時には林道のゲート前に着いたものの、またしても雨が降り出してきため少し様子を見ることにする。それでも何とか8時過ぎには上がったので出発する。

林道を1時間強歩くと赤薙沢合流の少し手前に中途半端な堰堤のような工作物があり、林道はここまでである。先行していた釣師が竿を振っているのではばらく休憩していたが、我々に気がついたのか釣り下っていったので、いよいよ入渓する。

間もなく赤薙沢を分け本流方向を進むが、豊富な水量が花崗岩を磨いているらしく、なかなか綺麗な溪相である。9m2段滝を落す川滝沢を通過すると、地形図の位置が間違っているとされる10mヒョングリ滝が現れる。これを越え、少し先の大岩の所でカラ沢が流入すると、更に先で鶴ノ首の滝と呼ばれる滝から連瀑となっている。登るのも容易では無さそうなので、右岸にある踏跡を使ってまとめて巻いてしまう。続く横手ノ滝は大水量が噴き出しているので左岸より巻き、次の滝も右岸から巻く。巻きは概ね明瞭で、また所要所にトラロープもあるので困難さは感じられない。

魚影が濃いとこのことで飯田さんが竿を出したが、この辺りの山女はすれているらしくヒットしない。釣り名人の飯田さんですら苦戦するのであれば私の出番は全くない。後ろの私でさえも魚影が確認できる位なので、もうしばらく釣り上がってみたものの釣果は厳しいものであった。

出だしが遅かった上、佐貫も車酔いが抜けず、私自身もザックがいつもより少し重かったりと序盤からスピードがなかなか上がらなかったが、悪場には踏跡がありそうなので幕場適地まで順調に行けるだろうと思い、このまま進むことに決める。

残置ロープのある4m滝は右岸側が簡単に登れそうだが滑りが著しく、かといって残置ロープも出処が埋まっていて怪しげである。先頭を切って登った飯田さんはロープには頼らなかったそうだが、後続二人は恐ろしいながらもそのロープに助けられた。しかしそこから沢身に下りるにも、出処が

【日程】

2016年7月16日（土）
～7月17日（日）

【メンバー】

棚橋（L）、佐貫、飯田

【地形図】

長坂上条、鳳凰山、仙丈ヶ岳

【記】 棚橋



花崗岩が美しい溪相

一緒の別のロープの使用は避けられない。

少し進むと右岸より前栗沢が合わさり、修正した本日の目的地である中栗沢出合までもう一息である、2段滝を越えると左岸側は幕営できそうな地形になってきた。そしていよいよ前栗沢に着く。そこそこ広くて平らだったので私はここで終了としたかったが、気持ちが良い位オープンだし草が茂っておりこのはっきりしない天気だと、どうにも決めかねる状況だ。先に後ろに30分近く偵察を行った結果、飯田さんが見つけてきてくれた赤石沢出合が総合的に最も良かった上、先人が集めてくれた大量の薪が決め手となった。結局ここに着いてからは天気も回復し、また湿っていた薪も良く燃えた。ここで私はテンカラ竿を振る練習をしたが、合わせる練習はできなかった。



7月17日(日) : 晴れ

ナメも発達している

早出をしようと3時起きを目論んだが睡眠不足のため大幅に寝坊し、結局5時半過ぎに出発する。今日は昨日と違い好天が予感させられる空模様だが、ラジオでは午後から天気の流れを告げていたのでなるべく早く北沢峠へと抜けたい。

赤石沢を分けてから現れた滝は、何れも小さく巻く。奥栗沢を過ぎた先の滝は水流を避けて、左側を登る。更に先には連瀑らしきものが見えるが、何れも大きそうだ。ここは直登を回避し、摩利支天前沢に少し入った所よりトラバース、支尾根を越えて沢に戻る。ここも概ね踏跡の様相で、六町ノ滝と呼ばれる連瀑は全てやり過ごした。

摩利支天沢を過ぎると、沢は水晶沢と呼ばれる源流部へと向かう。沢が右に曲がり、少し進むとガレたルンゼが右岸側から入る。このルンゼの奥で仙水峠に繋がるようだ。最初は寝ており、途中で左右何れかの樹林帯に入れば良さそうだ。ルンゼを登り始めて早々に左の樹林帯に入れるポイントがあったが、少し上にルートがあるように思えたので私だけ進んでみた。しかしそれは全くの思い違いであった。何とか戻らねばと思っていたところ、上から飯田さんの声があったのでロープを出してもらって何とか詰め上げた。上部はかなり厳しく、これまでに登った人はいるのだろうか。反省である。

合流し、方向を定めて登っていくと仙水峠の看板の所に出る。登山者の姿もチラホラと見える。天気も心配なので休憩もほどほどに北沢峠を目指す。仙水小屋、長衛小屋と進むにつれ人が増え、幕営指定地は100を超えるテントに埋め尽くされていて本当に驚いた。こうして辿りついた、北沢峠のバス待合所でバスを待っていると雨が音を立てて降り出す。さっさと歩いてきて良かった。

間一髪で雨を逃れ、ゆっくりバスを待つつもりでいたが臨時便が出ているらしく、それほど待たずに広河原まで運んでもらえた。更に乗り合いタクシーにて芦安駐車場まで下りると、また真夏の日差しと暑さが待ち構えていた。ここからタクシーにて車を無事回収。温泉、渋滞の中央道を経由して帰京とあいなった。

大武川は静かで魚影も濃く、綺麗な沢だった。かつて大武川本流に沿って仙水峠まで道が続いて

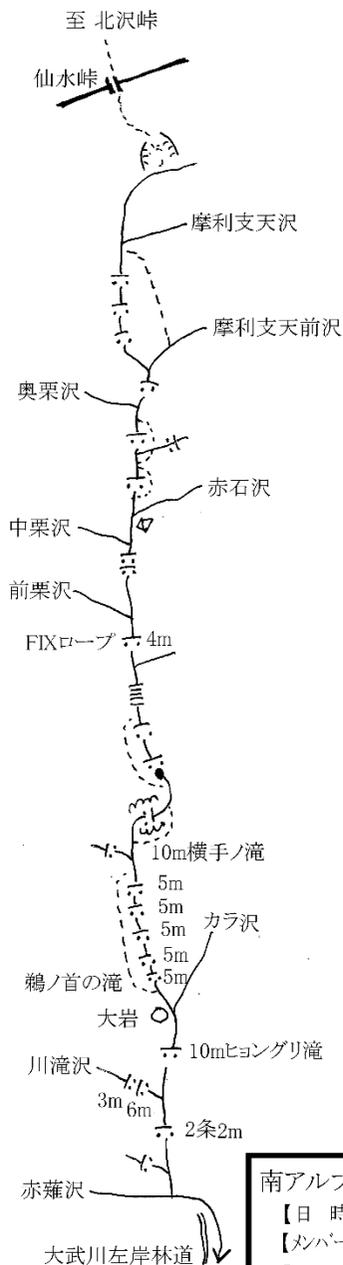
いたというのは驚きだが、その名残は随所にあり、それらを使わせて頂いた。魚影が濃いのに釣れないのは、そのあたりも原因がありそうだ。打って変わって仙水峠の西側は物凄い数の登山者であり、今の登山人気を再確認させられた。

【グレード】 2級上

【行程】

7/16 大武川左岸林道ゲート(8:19)～赤薙沢出合(9:30)～カラ沢出合(11:51)～中栗沢出合(15:01/24)～赤石沢出合 C1(15:29)

7/17 C1(5:43)～摩利支天前沢出合(6:50)～大ガレ(8:52)～仙水峠(10:04/10)～北沢峠(11:13)



南アルプス／大武川本流
【日時】 2016年7月16日(土)～17日(日)
【メンバー】 棚橋(L)、佐貫、飯田
【作図】 棚橋